

2024年8月吉日

関係各位

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
運営委員長 荒木 信夫
受託者 みずほ信託銀行株式会社

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り有難く厚くお礼申し上げます。

さて、公益信託美原脳血管障害研究振興基金は、脳血管障害に関する研究振興を目的に、文部（現文部科学）大臣の許可を得て1981年に設立されました。

爾来、国内外の方々より、近年脳血管障害の研究において目覚ましい業績を挙げておられる研究者（臨床、基礎研究のいずれも可）をご推薦いただき、研究費（1,000万円）の助成を行って参りました。

このたび、2024年度研究助成金（美原賞）候補者の募集を行うことになりましたので、同封いたしました下記の書類をご参照いただき、貴殿より研究助成金（美原賞）候補者をご推薦くださいますようお願い申し上げます。

なお、過去にご推薦をいただき、惜しくも受賞されなかった方の再度のご推薦も差支えはありません。

また、本基金は推薦者・被推薦者の個人情報をお基金選考助成実施のために必要な範囲において取扱い、その範囲を超えて使用することは一切ありません。

敬 具

（同封書類）

1. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の趣意書
2. 公益信託美原脳血管障害研究振興基金の概要
3. 2024年度研究助成金（美原賞）候補者の応募要項および推薦書
4. 2023年度受賞者（七田 崇様）略歴、受賞記念講演抄録

以 上

趣 意 書

本研究振興基金は、脳血管障害（脳卒中）に対する研究を振興するため、国の内外を問わず、すぐれた研究者に重点的な研究費助成及び補助を行なうことを目的とする。

衆知のように、脳血管障害とガンの両疾患は、我が国の死亡原因の首位を争うものである。しかし、ガンの研究に対する社会的関心は頓に高まりつつあり、その研究者も既に膨大な数に達しつつある。これに反し、脳血管障害の研究の重要性はややもすれば看過されがちであるとしても決して過言でない。

しかも、脳血管障害の研究においては、その成因、予防、治療、社会復帰のいずれも複雑な問題を内包し、基礎研究、臨床研究、或いは社会医学的研究のいずれも極めて忍耐強い努力を研究者に要求するものである。

この公益信託基金の委託者美原博は、既に財団法人脳血管研究所及び付属美原記念病院を設立し、多年に亘り脳血管障害の成因、診断、治療、社会復帰等の研究に努力を重ねてきたのである。しかしながら、この疾患の研究はもとより一研究組織のよくする所ではない。従って、美原博、国の内外を問わず、より広い規模において、この疾患の研究に立ち向かう英知を育成する必要を痛感し、この疾患に取り組むすぐれた研究者に重点的に研究費助成及び補助を行なわんと決意したのである。

玄に、公益信託美原脳血管障害研究振興基金を設立し、研究を奨励し、医学の進歩と人類の福祉に貢献することを念願する所以である。

1981年4月作成
美原博（故人）

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」の概要

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 基金名称 | 公益信託美原脳血管障害研究振興基金 |
| 2. 目的 | 我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。 |
| 3. 事業 | 脳血管障害に関する基礎的、臨床的研究に携わる研究者の研究に対し、助成金の給付を行う。 |
| 4. 当初信託財産 | 3億円 |
| 5. 委託者 | (故) 美原 博 |
| 6. 信託管理人 | 古川 元久 (衆議院議員) |
| 7. 運営委員長 | 荒木 信夫 (埼玉医科大学名誉教授) |
| 8. 運営委員
(五十音順) | 池田 佳生 (群馬大学大学院教授)
菅 貞郎 (東京歯科大学市川総合病院特任教授)
高尾 昌樹 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
病院 臨床検査部長)
長谷川 友紀 (東邦大学教授)
美原 盤 (公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院院長) |
| 9. 主務官庁 | 文部科学省 |
| 10. 受託者 | みずほ信託銀行株式会社 |

**「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」
2024年度研究助成金（美原賞）候補者応募要項**

1. 目 的

本基金は、我が国において脳血管障害の基礎的、臨床的研究が急務であることに鑑み、この分野での研究者による研究に対し、助成を行い、もって医学の進歩と人類の福祉に寄与することを目的とする。

2. 助成の対象

脳血管障害の基礎的、臨床的研究において目覚しい業績を挙げている研究者の研究。
個別かつ具体的な研究計画に対して、その実施を支援するために助成を行う。

3. 助成または顕彰件数・金額

研究助成金（美原賞） 1件 1,000万円

4. 推薦方法

【研究助成金】

推薦者は、以下の「5. 提出書類」に記載の書類に必要事項を記載のうえ、下記の事務局あて送付してください。

5. 提出書類

(注意：2024年度より推薦書に加えて、主要文献の要旨(Abstract)の提出が必要になります)

(1) 2024年度研究助成金（美原賞）候補者推薦書

- * 候補者氏名欄には、必ず候補者の自署（サイン）および押印を、
推薦者氏名欄には、必ず推薦者の自署（サイン）および押印をお願いします。推薦者の肩書に制限はありません。
- * 当基金ホームページ (URL: http://www.mihara.umin.jp/recommend_j.html) に様式ファイルを掲載しております。右のQRコードを読み込むと様式ファイルを掲載した基金ホームページが表示されます。



(2) 推薦書5ページ記載の主要文献の要旨(Abstract)

- * 主要文献の要旨の様式は問いません。

6. 募集期間

2024年8月1日（木曜日）～2024年10月31日（木曜日）
（事務局必着）

7. 選考方法

本基金の運営委員会において決定します。

8. 研究助成金の贈呈

2025年2月（予定）

9. 問い合わせ先および推薦書送付先

〒100-8241 東京都千代田区丸の内1-3-3

みずほ信託銀行株式会社 個人業務部 信託業務開発チーム

「公益信託 美原脳血管障害研究振興基金」事務局

電話 03-6631-7640（直通）

（注）【研究助成金（美原賞）受賞について】

1. 研究助成金（美原賞）は贈呈後の1年間に使用することを原則とし、使用期間が1年以上の場合は、研究の進捗状況に関する中間報告（書式は任意）を事務局あて提出してください。
2. 研究助成金（美原賞）受賞者は、研究成果報告書（経過と結果）および助成金の使用状況についての収支報告書（領収書等を添付）を提出してください。また、専門誌等に研究成果を発表する際は、“公益信託美原脳血管障害研究振興基金より研究助成金を授与された研究である”旨を記載してください。
3. 研究助成金（美原賞）受賞者の受賞記念講演抄録、写真、略歴ならびに業績集を当基金のホームページに掲載します。

公益信託美原脳血管障害研究振興基金
2024年度研究助成金（美原賞）候補者推薦書

公益信託

美原脳血管障害研究振興基金 御中

2024年 月 日

(推薦を受ける研究者の) ふ り が な 氏 名 上 記 英 文 名 生年月日 年齢	
所 属 機 関 上 記 英 文 名	
職 位 ・ 学 位 上 記 英 文 名	
最 終 学 歴	西暦 年 月 大学卒業 西暦 年 月 大学院修了・退学
上記研究者を、貴基金研究助成金（美原賞）候補者として推薦します。 推 薦 者 氏 名 (自署願います) 所 属 機 関 職 位 所 在 地 電 話 番 号 E メ ー ル 印	

推薦理由
* 推薦者は、具体的に主要な業績を挙げてご推薦下さい。
キーワード 1. 2. 3.

被推薦者調書（研究計画書）

*被推薦者ご自身にてご記入願います。

1. 研究助成金を受けて行う研究テーマ：

2. 研究テーマに関する所要金額：

3. 研究目的：

被推薦者調書（研究計画書）

4. 研究計画：

5. 期待される成果：

被推薦者調書

6. 主要文献を記入（10 編以内） ※文献要旨 (Abstract) を提出してください

被推薦者調書

6. 主要文献を記入（続き）※文献要旨(Abstract)を提出してください

被推薦者	ふり 氏	がな 名	印
(自署願います)	所属機関		
	職 位		
	所属機関所在地		
	電話番号		
	E メール		
	自宅住所		

第 43 回美原賞受賞記念講演

脳梗塞の炎症修復学

東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経炎症修復学分野

教授 七田 崇

脳卒中は要介護、寝たきりの主要因であり、脳機能予後を改善する薬に乏しい状況が続いている。脳を損傷すると脳内では炎症が起こり、脳組織が炎症に伴って腫れると損傷部周囲の正常な脳組織を圧迫して傷害するため、脳卒中患者の神経症状は進行し、脳機能予後を悪化させてしまう。炎症は脳卒中を発症して1週間後には治まり、患者はリハビリテーションに取り組むことによって、失った脳機能を取り戻すことができる（神経機能が修復される）。そこで医師として脳卒中医療に携わった経験を基に、脳卒中の約 8 割を占める脳梗塞における、脳内炎症と神経修復の詳細な分子・細胞メカニズムの解明に取り組んだ。

炎症は臓器の損傷に伴って免疫系が活性化されることにより引き起こされるが、脳は無菌的な臓器であるため免疫系を活性化する病原体由来の分子がほとんど存在しない。そこで脳内の分子を調べたところ、脳細胞の中には peroxiredoxin や DJ-1 タンパク質が豊富に存在し、脳組織が損傷すると、これらのタンパク質が細胞外に放出されることによって免疫系を活性化することが判明した。免疫系を構成するマクロファージや好中球はサイトカインを産生して炎症を引き起こすと共に、神経細胞を傷害して脳機能予後を悪化させる。さらにサイトカインはリンパ球による炎症も誘導し、このように脳梗塞後に見られる炎症の詳細な分子・細胞メカニズムを解明することができた。

脳梗塞後の炎症は発症 1 週間程度で治まるが、炎症を引き起こしていた免疫系は次第に修復作用を持ち始めることも判明した。マクロファージはスカベンジャー受容体を強く発現するようになり、peroxiredoxin や DJ-1 タンパク質を脳内から排除する役割を担う。さらには神経栄養因子を産生して、失った脳機能を回復させるために神経回路を再構築する。脳は再生することが困難な臓器の代表例であり、損傷した神経細胞は修復されないのではないかと懸念したが、実際には神経細胞を調べてみると非常に活発な修復機転が備わっていることが判明した。例えば脳梗塞による損傷部周囲の神経細胞はジホモリノレン酸の代謝物を生成し、神経修復に必要な分子を作り出す。脳神経回路は発症 1~2 ヶ月にかけて再構築され、失った脳機能は再獲得される。

以上のような脳の損傷に伴う炎症・修復の分子・細胞メカニズムは世界的に研究が進んでいるところであり、脳機能回復を促進させる治療薬開発が試みられている。脳梗塞の炎症修復学をさらに発展深化させ、脳機能回復をあきらめない治療手段の確立に結び付けたいと考えている。

略歴書

氏名 七田 崇（しちた たかし）

現職 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経炎症修復学分野 教授

略歴

2004 年 九州大学医学部医学科 卒業

2005～2007 年 九州医療センター研修医、脳血管内科レジデント

2010 年 九州大学大学院医学系学府 卒業（医学博士）

2011 年 科学技術振興さがけ研究員（慢性炎症領域）

2012 年 慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室 助教

2015 年 慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室 講師

2017 年 東京都医学総合研究所 脳卒中ルネサンスプロジェクト プロジェクトリ
ーダー

2023 年 4 月より現職